

「マトメージュ」でヘアアレンジ体験会を実施

ウテナは6月5日、今年3月にリニューアルしたスタイリングシリーズ「マトメージュ」を活用したヘアアレンジ体験会を実施し、会場には「髪を切ってもらって彼氏ができる」とのジレンマが女性の間で評判となり、「マト髪師」という肩書きでも活動している美容師の大悟がゲストとして駆けつけた。



現されたほか、より「バブルらしさ」を表現するために「まとめ髪スディックレギュラー」を使い、分け目にあは毛が発生するのを抑えた1980年代の「バブルスタイル」が再現された。最後に、誰でも簡単に再現できるという2018年最新の流行ヘアアレンジが紹介された。現代のヘアアレンジは、「こなれ感」や「ふわっとしたやわらかさ」を出すことがポイントだという。

イベント冒頭では、マトメージュを「も出しやすい」と語った。ヨーでは、ウテナ創立以来、ヘアアレンジ部宣伝販 一方、八重樫氏は今年3月のリニューアルで進化したポイントについて、「今回、雨や汗で崩れ、マトメージュをささいな吸湿ブロック成分を追加したことにより、使用しているという大悟さんの魅力について、手が汚れないので、髪を洗うに手間が省けるのが嬉しい」とコメントした。後半に行われたヘアアレンジ体験会では、大悟さんがマトメージュを使って再現した。最初に、1920年代に流行した「フィンガーウェーブ」という大正レトロの雰囲気漂うアレンジが紹介された。この時、髪は横顔の美しさが重視され、顔周りに大きなウェーブを作った髪型が流行した「ロカビリースタイル」が再現された。

続いて、「まとめ髪スディックレギュラー」をなじませながら髪型が作られ、最後に「こなれ感」を演出するために三つ編みをほぐす際にも、マトメージュを使うことでボサボサにならず上品に仕上がった。

ヘアショーを終えた大悟さんは最後に、「マトメージュは年代を問わず誰でも使いやすいので、これから始まる暑い夏も、マトメージュを使ってまとめ髪アレンジを楽しんでほしい」とアピールした。

百貨店でメゾンフレグランスを育成

フォルテでは「リュ・ランセ」シリーズには、伝統と現代を融合させた、ユニセックスでフレッシュな香りが揃う。シトラス・アロマティック・グリーンノートの「リュ・ド・ソレイユオードトワレ」(50mL8500円、写真上)を7月25日に発売する。

1795年、ランセは南仏グラーヌにフレグランスメゾンを立ち上げ、香水の一大産業地として発展させた。その功績から、ランセの香水工房があった通りは「リュ・ランセ」(ランセ通り)と呼ばれるようになった。この由縁にオマージュを込めて甦らせた



「女性のパフューマーがメゾンのハイクラ」がメゾンのハイクラ新ブランド「サール・デ・パフューマー」(全7種、写真上)では、1つの香りを、著名な1人の調香師が担当するユニークなコンセプトが話題になっている。4月25日より先行発売した伊勢丹本店メンズ館では、アロマティックな「ヴァーグ・ド・フォーリー・ヴェルトゥ」や、金木犀の森をイメージした「オスマンテ」が好評だ。30mLで7000円と、メゾンブランドとしては比較的買いやすい価格であり、香りの特徴もシンプルでわかりやすい。メゾンブランドの入門編としておすすめだ。



「フォルテでは戦略の1つとして、百貨店とのパートナーシップを通じてメゾンフレグランスを展開し、当社

「女心」攻略データベース

第91回 たまには叱られたい

●執筆者プロフィール●
中村浩子
株式会社ヴィナスプロジェクト代表取締役社長
聖心女子大学在学中より、光文社「JJ」にてファッション・ライフスタイルを担当。その後「VERY」「STORY」の編集、企画を経て独立。株式会社セブン&アイ出版スーパーバイザーを経て、現在は一万人の読者モデル発掘の経験と女性消費者を取り巻く様々なブランドプロデュース、コンサルティングなどを行う。



●解説者プロフィール●
中野靖識 船舶総合研究所 上席コンサルタント
小売業を中心としたマーケティング戦略立案および実行支援を主業務としている。特に、現場の戦術、戦略レベルの業務である商品構成・売場作り、プロモーション、それらを最大限に活かすための社員教育までカバーしている。戦略立案から現場へ落とし込むまでの一貫した業務経験を豊富に有する。

問い合わせ先
株式会社ヴィナスプロジェクト 小林
TEL 03-3408-7765
Mail venus-project@fine.ocn.ne.jp

こんなにテレビを見なくなったのに、このところ金曜の夜が待ちどわしくなるほど、楽しみにしている番組が、NHK総合テレビの「チコちゃんに叱られる!」です。2017年より単発での放送が始まり、2018年4月から毎週金曜日19時57分〜レギュラー放送が始まったクイズバラエティー番組ですが、5歳の女の子という設定で、最新のCG技術を駆使したキャラクターのチコちゃん、レギュラーの岡村隆史さんを含む回答者に、クイズ番組形式で素朴な質問を投げかけます。

前と違って過ごしていることについて問題を聞かれますが、答えを間違えると、「ボーっと生きてんじゃねえよ!」と、真っ赤な顔のチコちゃんから凄まじいお叱りを受けま

の価値を見出しだしている。今後は夏に向けて、香りを纏うことで心地よく過ごせる香水を様々なブランドから提案していきたい。脳に作用し、記憶や気持ちの部分にまで働きかける香りを素敵に使いこなせるよう、あらゆる流通ではじめの二歩を後押ししていきたい」(同社)

【自分自身を励ましたい心理】
中村さんのお話をお聞きする中、自分自身が新人時代に先輩コンサルタントから指導していただいたことを思い出しました。

ない「怒る」は、傍から見たら同じように見えても、全うするもの。「叱る」と「怒る」が線引きされないまま、パワハラの問題につながられてしまうことも残念なことです。

先述の番組では最後に、チコちゃんと岡村君が昭和を感じさせる日本家屋の縁側に並んで座り、実際の年齢に関係なく歳の子供として書かれた視聴者からのお便りを読むシーンがあります。どのお手紙からも、いくつになっても子供のように思われることが、チコちゃんに「たまには叱られたい」と思っている人たちの共感ではないでしょうか。

「怒り」は発生した出来事に負の意味づけをすることから発生するとされていて、「怒る」のは自分自身の心のコップから溢れた負

執筆者・中野靖識